

教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価報告書

(令和元年度分)

令和2年8月

北名古屋市教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

教育委員会は、「北名古屋市教育大綱」及び「北名古屋教育推進スキーム」に基づき、令和元年度教育委員会基本方針を定め 54 事業を実施した。その中から、いくつかの事業を抽出し、その各事業に対して、教育に関し学識経験を有する外部評価委員の知見を活用して点検及び評価を行い、意見をいただきながら事業の「成果」、「課題」を実績データに基づき検証し、「今後の対応」を項目ごとに整理した。

2 点検及び評価の対象

令和元年度における教育委員会所管の事業から、重点目標の達成に資する主な事業を抽出し対象としました。

3 点検及び評価の方法

- (1) 点検及び評価にあたっては、基本方針・重点目標に基づき、事業の執行に伴う成果、課題について実績データを基に整理し、今後の対応を明記しました。
- (2) 点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方 2 名を北名古屋市教育委員会外部評価委員に委嘱し、北名古屋市教育委員会外部評価委員会においてご意見、ご助言をいただくとともに、評価書に意見を付しました。
- (3) 点検及び評価にあたっては、その結果を評価報告書として取りまとめ、令和 2 年 8 月開催の北名古屋市教育委員会にて議決をしました。

【令和 2 年度外部評価委員】

(敬称略)

氏 名	所 属
玉 置 崇	岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授
加 藤 聡 一	名古屋芸術大学 人間発達学部 子ども発達学科 准教授

4 教育委員会の活動

(1) 北名古屋市教育委員名簿

令和2年6月1日現在

職名	氏名	任期
教育長	吉田文明	平成30年6月1日～令和3年5月31日
教育長職務代理者	池山健次	平成29年5月23日～令和3年5月22日
委員	鈴野範子	令和2年5月23日～令和6年5月22日
委員	岡島秀隆	平成30年5月23日～令和4年5月22日
委員	山田聡子	令和元年5月23日～令和5年5月22日
委員	寺川理絵	令和2年5月23日～令和6年5月22日

(2) 教育委員会会議内容

4月12日 (金)	1-1 教育長報告 1-2 その他報告 (1) 小中学校の組織現況について (2) 愛日地方教育事務協議会について 2 所管事項報告 (1) 学校教育課 ア 平成30年度出退勤時間記録の集計による残業時間の状況について イ 小学校英語授業への教科担任制の導入について (2) 生涯学習課 ア 平成30年度中学生語学留学事業（グアム英語研修ツアー）について イ 歴史民俗資料館企画展について
4月24日 (水)	1 議事 議案第20号 教員の処分について

<p>5月20日 (月)</p>	<p>1 前議事録の承認 2-1 教育長報告 2-2 その他報告 (1) 令和元年度西春日井地区教育会委員名簿について (2) 第29回東海北陸都市教育長協議会定期総会並びに研究大会について (3) 尾張部都市教育長会議について (4) 教職員の不祥事防止について 3 所管事項報告 (1) 学校教育課 ア 市議会について イ 平成30年度北名古屋市小中学校卒業者の進路状況について 4 議事 議案第21号 北名古屋市社会教育委員の推薦について</p>
<p>6月5日 (水)</p>	<p>1-1 教育長報告 1-2 その他報告 (1) 愛日地方教育事務協議会事業報告書について (2) 全国都市教育長会議について (3) 北名古屋市いじめ問題対策連絡協議会会議等について (4) 北名古屋市フォローアップ委員会会議について (5) 北名古屋市不登校対策協議会について 2 所管事項報告 (1) 学校教育課 ア 北名古屋市議会について イ 教科書採択における公正確保の徹底について (2) 生涯学習課 北名古屋市少年少女発明クラブ創立10周年記念事業について (3) スポーツ課 ア 北名古屋市総合運動広場駐車場増設について イ スポーツ資料展示について</p>
<p>7月12日 (金)</p>	<p>1 前議事録の承認 2 議事 議案第22号 令和2年度使用小・中学校教科用図書の採択について 議案第23号 北名古屋市図書館協議会委員の推薦について 3-1 教育長報告</p>

	<p>3-2 その他報告</p> <p>(1) 尾張部都市教育長会議について</p> <p>(2) T A L I S 2 0 1 8について</p> <p>(3) 縣市町村教育委員会総会・研修会について</p> <p>(4) 地区スポーツ推進委員会研修会について</p> <p>4 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課 夏季休暇中における児童・生徒の宿泊を伴う行事への参加について</p> <p>(2) 生涯学習課 ア 文化勤労会館のネーミングライツパートナー公募について イ 歴史民俗資料館企画展について</p> <p>(3) スポーツ課 北名古屋ジャンボプールの開場について</p>
8月5日 (月)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>(1) 西春日井支所中学校体育大会について</p> <p>(2) 学校教育の情報化促進について</p> <p>3 所管事項報告 学校教育課 ア 平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について イ 令和元年度北名古屋市運動会・体育大会出席表について</p> <p>4 議事 議案第24号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価 報告書について 議案第25号 愛知県教科用図書採択地区の適正規模化に係る意向確認 について</p>
8月30日 (金)	<p>1-1 教育長報告</p> <p>1-2 その他報告 校長会要望事項等について</p> <p>2 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課 ア 平成30年度決算審査の講評(要旨)について イ 令和元年度北名古屋市運動会・体育大会出席表について</p>

	<p>ウ 北名古屋市議会について</p> <p>(2) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及評価報告書について</p>
10月7日 (月)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>(1) 給食指導について</p> <p>(2) インフルエンザ等による学校・学年・学級閉鎖について</p> <p>3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 北名古屋市議会について</p> <p>イ 夏季休暇中における英語研修について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>ア 北なごやパペットフェスタ2019実施結果について</p> <p>イ 文化勤労会館のネーミングライツについて</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>ア ジャンボプール入場者数について</p> <p>イ 市民体育祭2019について</p> <p>3 議題</p> <p>議案第26号 令和2年度教職員定期人事異動方針について</p> <p>議案第27号 北名古屋市スポーツ推進委委員移管する規則の一部改正について</p>
11月1日 (金)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>(1) 小学校ブロック別サッカー・バスケットボール競技会の結果について</p> <p>(2) 愛日地方教育事務協議会について</p> <p>(3) 尾張部都市教育長会議について</p> <p>3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 平成30年度間生徒指導上の諸問題について</p> <p>イ 表彰の関係について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>歴史民俗資料館企画展について</p> <p>(3) スポーツ課</p>

	<p>愛知県市町村対抗駅伝競走大会について</p> <p>4 議事</p> <p>議案第28号 令和2年度小中学校の儀式等について</p>
12月2日 (月)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 教育長報告</p> <p>3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>北名古屋市議会について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>令和2年北名古屋市成人のつどいについて</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>ア 北名古屋市スポーツ競技全国大会等出場者激励費支給要綱について</p> <p>イ 第5回北なごやふるさとマラソンについて</p> <p>4 議事</p> <p>議案第29号 北名古屋市就学援助費支給要綱の一部改正について</p>
1月10日 (金)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2-1 教育長報告</p> <p>2-2 その他報告</p> <p>令和2年度愛日地方教育事務協議会について</p> <p>3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課</p> <p>ア 北名古屋市議会について</p> <p>イ 令和元年度愛知県緑化ポスター原画コンクール入賞者について</p> <p>ウ いじめサミットについて</p> <p>エ GIGAスクール構想について</p> <p>(2) 生涯学習課</p> <p>ア 少年少女発明クラブ創立10周年記念事業について</p> <p>イ あいち少年少女創意くふう展2019受賞者について</p> <p>ウ ザ・ベストテンコンサートX実施報告について</p> <p>エ 第14回北名古屋市民音楽祭実施報告について</p> <p>(3) スポーツ課</p> <p>ア 北名古屋市体育館の設置及び管理に関する条例の一部改正について</p> <p>イ 第14回愛知県市町村対抗駅伝競走大会の結果について</p>

	<p>ウ 2019年度公営財団法人全国スポーツ推進連合会表彰について</p> <p>4 議案</p> <p>議案第1号 北名古屋市体育館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p>
2月3日 (月)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 教育長報告</p> <p>3 所管事項報告</p> <p>(1) 学校教育課 学校ICT活用フォーラムについて</p> <p>(2) 生涯学習課 ア 成人のつどいの対象年齢について イ 令和元年度東図書館及び歴史民俗資料館の臨時休館について</p> <p>(3) スポーツ課 第4回北なごやふるさとマラソンの結果について</p> <p>3 議事</p> <p>議案第2号 令和2年度全国学力・学習状況調査について</p> <p>議案第3号 令和2年度学校教育目標について</p>
2月28日 (金)	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p>議案第4号 令和2年度北名古屋市教育委員会基本方針について</p> <p>議案第5号 北名古屋市教育委員会事務局組織規則の一部改正について</p> <p>議案第6号 北名古屋市学校管理規則の一部改正について</p> <p>議案第7号 北名古屋市学校運営協議会の一部改正について</p> <p>議案第8号 北名古屋市立学校外国語指導助手設置要綱について</p> <p>議案第9号 北名古屋市教育支援センター設置要綱の全部改正について</p> <p>議案第10号 北名古屋市教育委員会外部評価委員設置要綱の一部改正について</p> <p>議案第11号 北名古屋市豊かな学び創造推進協議会設置要綱の一部改正について</p> <p>議案第12号 北名古屋市不登校対策事業要綱の一部改正について</p> <p>議案第13号 北名古屋市スクールソーシャルワーカー設置要綱の一部改正について</p> <p>議案第14号 北名古屋市立中学校部活指導員設置要綱の一部改正につ</p>

	<p style="text-align: center;">いて</p> <p style="text-align: center;">議案第15号 北名古屋市立中学校スクール・サポート・スタッフ設置 要綱の一部改正について</p> <p style="text-align: center;">議案第16号 北名古屋市立学校栄養職員非常勤講師設置要綱の廃止に ついて</p> <p style="text-align: center;">議案第17号 北名古屋市立学校非常勤講師の雇用等に関する要綱の廃 止について</p> <p style="text-align: center;">議案第18号 北名古屋市教育支援センター指導員に関する要綱の廃止 について</p> <p style="text-align: center;">議案第19号 教職員の人事異動について</p> <p>3-1 教育長報告</p> <p>3-2 その他報告</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 尾張部都市教育長会について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 新型コロナウイルス感染症対策について</p> <p>4 所管事項報告</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 学校教育課 教職員辞令伝達式について</p>
<p>3月31日 (火)</p>	<p>1 前議事録の承認</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">議案第20号 北名古屋市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則 の一部改正について</p> <p style="padding-left: 20px;">議案第21号 北名古屋市障害者活躍推進計画の策定について</p> <p>3 所管事項報告</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 学校教育課</p> <p style="padding-left: 40px;">ア 教職員の人事異動について</p> <p style="padding-left: 40px;">イ 市職員の人事異動について</p>

(3) 教育委員が出席した学校行事

ア 学校訪問

訓原中学校	5月30日(木)	、師勝西小学校	6月20日(木)
西春小学校	10月3日(木)	、白木小学校	10月10日(木)
白木中学校	10月21日(月)	、師勝北小学校	10月31日(木)
鴨田小学校	11月7日(木)	、西春中学校	11月14日(木)

イ 運動会・体育大会

小学校 10月20日(日) ただし、栗島小学校は 10月24日(水)
中学校 9月25日(水)

5 総合教育会議

(1) 第1回 10月7日(月)

議題

学校における働き方改革について

(2) 第2回 令和2年2月3日(月)

議題

未来への投資

I 学校教育課

学校教育課は、「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、全ての児童生徒が「社会を生き抜く力」を育み、児童生徒・保護者・市民から「信頼される学校教育」を推進することを目指し、6つの重点目標を定め、施策・事業を実施した。ここでは、「社会を生き抜く力を育む」と「世界に羽ばたく力を育む」の2つの重点目標に関する3事業を対象とした。

はじめに、我が国は人生100年時代を迎えようとしており、また、超スマート社会の実現に向けて人工知能やビッグデータの活用など技術革新が急速に進んでいる。こうした中、社会を生き抜くために必要な力を身に付け、活躍できるようにする上で、教育の力の果たす役割は非常に大きい。そのような中、幼児期の教育から中等教育までに各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進し、初等中等教育段階においては、地域を担う人材育成に資するためにも、地元企業等と連携した企業体験、職場体験、インターンシップの普及促進を図る。

次に、専門職である教員にとって、教科や教職の専門知識は、日々学び、更新を続けなければならないほど重要である。児童生徒の実態や授業づくりに即して、絶えず教科・教職の知見、教育実践力をブラッシュアップ、再構築していくことが求められている。教員の大量退職・大量採用の中、教育は「量」から「質」の時代へと転換し、教育内容、学びの様式、教育システムの改革に、教育現場は総力を挙げて取り組んでいる。Society5.0時代を担う子どもたちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の活用が求められる中、教員がICTを活用する能力が求められる。

3点目、世界に羽ばたく人材の育成として、グローバル化した社会全体の変化に対応して新たな価値を創造し、自ら考え、進んで行動する力を身に付ける必要がある。英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成する観点から、英語教育の小学校高学年の教科化を踏まえ、英語授業について、いち早く教科担任制を導入し、教育内容の専門性の向上に取り組んだ。児童の学力の向上を目指し、指導の専門性や授業の質の向上を図るため、教師間の分担の工夫に加え、中学校との連携も図り、義務教育9年間を見通した教科担任制を進めるべきである。

キャリア教育の充実

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、児童生徒に「夢」と「生き抜く力」を育む信頼される学校教育を推進する。
重点目標	<p>社会を生き抜く力を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校及び中学校9年間を通じて育成する資質・能力及び課題を、小中が連携して明確化し、一貫した教育に取り組む。 <p>(成果指標)</p> <p>キャリア教育全体計画作成 全小中学校で作成 100%</p> <p>実施状況 全小中学校の各学年で10時間以上実施する</p> <p>キャリアスクールプロジェクト(ガイダンス事業・職場体験学習・プレゼンテーション事業)のアンケート結果の満足度 満足度 95%</p>
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の全体計画を策定し、系統的に教育活動を行った。 ・総合的な学習の時間に、地域からゲストティーチャーを招いて仕事の内容や働く喜びについて話を聞く機会を設けた。 ・小学校では、生活科や社会科、総合的な学習の時間等に、社会見学を実施し、間近で働く人を見たり、働く人から話を聞いたりする機会を設けた。 ・中学校では、全校が「魅力あるあいちキャリアプロジェクト『つなぐ』推進事業」に登録し、職場体験学習を核に計画的にキャリア教育を進めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの学校で、学校運営協議会の協力を得て、キャリア教育に関わる講師選定や受入事業所の依頼を行うことができ、社会に開かれた教育課程を実現することができた。 ・中学校では、事前学習で「マナー講座」や「職業講話」などを実施したことで、生徒は「働く意義」や「働く心得」を学んだ上で、意欲的に職場体験学習に取り組むことができた。 ・中学校では、事後学習にプレゼンテーション活動を取り入れたことで、体験したことを共有するとともに、自己の生き方について深く考える機会とすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校及び中学校9年間を通じてキャリア教育で育む基礎的・汎用的能力を明確化し、教育活動の一環として系統的に実施する必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会「キャリア教育ノート」等を参考に、自己の変容や成長を自己評価できるワークシートを作成し、ポートフォリオ（キャリア・パスポート）を実効性あるものにするため、小中間で協議・連携する必要がある。 ・カリキュラム・マネジメントによるキャリア教育の充実を図るとともに、コミュニティ・スクールを核に、家庭・地域・関係機関との連携を促進する必要がある。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごとに、実践されている教育活動をキャリア教育の視点で整理し、育みたい基礎的・汎用的能力を位置付けた全体計画を策定していく。 ・中学校区ごとに、ワークシート（キャリア教育ノート）の内容等を統一し、キャリア・パスポートの引継ぎや指導方法について小中間で共通理解を図る。 ・「地域の子どもは地域で育てる」という意識をもち、将来の地域の担い手の育成や地域へ貢献する力を付ける活動を推進していく。
外部評価委員の意見	<p>子どもたちが今後どう生きていくかを期せずして問う事態になりつつある。こうした状況となったからこそ、キャリア教育（生き方指導）はとても重要である。教員がキャリア教育への理解をさらに深め、ポートフォリオ（キャリア・パスポート）の大切さを子どもにしっかり語り、ポートフォリオが単なる体験活動のまとめにならないように留意したい。</p> <p>新学習指導要領実施にむけて、キャリア教育を軸にしたことはカリキュラム・マネジメントの観点からみて高く評価できる。地域とできた様々なつながりを、具体的に一つひとつの職業や企業ごとに考えて、次には教科の授業にリンクさせていくことが「社会に開かれた教育課程」づくりの基本となる。学んだことが自分の将来にどうなるのかの、「学びに向かう力、人間性など」につながっていくところを意識したい。これだけ多くの協力（協働する主体）があることは、本市の教育が高く評価されているエビデンスでもあろう。</p>

○実績データ

1 令和元年度キャリアスクールプロジェクト「つなぐ」 市内6中学校の実践

(1) ガイダンス事業

- ・職場体験学習ガイダンス…全校
- ・マナー講座…5 中学校

- ・職業講話…A 中学校（講師 7 名）、B 中学校（講師 1 2 名）、C 中学校（講師 3 名）、
D 中学校（講師 6 名）…4 校

- ・「生き方メッセージ集」DVD 視聴…A 中学校、B 中学校…2 校

(2) 事前指導

- ・職場体験学習の視点確認…全校
- ・体験受入事業所への電話依頼、質問状送付…全校

(3) 職場体験（全校 3 日間実施）

- ・実施時期…A 中学校（7～8 月）、B 中学校（8 月）、C 中学校（8 月）
D 中学校（10 月）、E 中学校（11 月）、F 中学校（11 月）

・受入委事業所（数）

事業種	市計	県計
建設業	5	375
製造業	12	869
情報通信業	3	191
卸売・小売業	54	5,309
金融・保険業	1	112
不動産業	1	11
飲食店・宿泊業	36	3,955
医療・福祉	35	3,091
教育・学習支援業	28	2,405
複合サービス業	14	426
その他サービス業	16	1,971
公務	16	1,244

(4) 事後指導

- ・体験活動のまとめ…全校
- ・事業所へのお礼の手紙…全校

(5) プレゼンテーション事業

- ・身近な人への職業インタビュー（1 年）…2 校
- ・職場体験学習報告会（2 年→1 年）…3 校
- ・職場体験学習のまとめ展示発表（2 年）…3 校
- ・進路学習のまとめ展示発表（3 年）…1 校
- ・生き方発表会（3 年→2 年）…2 校

(6) アンケート集計結果

(%)

ガイダンス事業（1年生対象）		計
①職場見学及び講師や2・3年生の職場体験などの話を聞くことで、働いている人の苦労や働くことの大切などが学べましたか。	思う	72.9
	概ねそう思う	25.3
	小計	98.2
	あまり思わない	1.5
	思わない	0.3
②職場見学及び講師や2・3年の職場体験などの話を聞くことで、職場体験学習が楽しみになりましたか。	思う	73.8
	概ねそう思う	21.8
	小計	95.6
	あまり思わない	3.7
	思わない	0.7

職場体験学習（2年生対象）		市
今回の職場体験学習で、働いている人の苦労や働くことの大切などが学べましたか。	思う	79.9
	概ねそう思う	17.8
	小計	97.7
	あまり思わない	1.9
	思わない	0.4

事業所・講師等（事業所、講師等対象）		市
今回の職場体験学習は、中学生が働く意欲を育て、働くことの大切さを学ぶのに有効であったと思われますか。	思う	67.7
	概ねそう思う	29.6
	小計	97.3
	あまり思わない	2.7
	思わない	0.0

プレゼンテーション事業（3年生対象）		市
①講師の話や下級生へ職場体験学習について説明することで、改めて働いている人の苦労や働くことの大切などが学べましたか。	思う	67.3
	概ねそう思う	30.2
	小計	97.5
	あまり思わない	1.9
	思わない	0.6

②将来の生き方について説明することで、今後の進路選択について考えるきっかけになりましたか。	思う	61.4
	概ねそう思う	34.1
	小計	95.5
	あまり思わない	4.0
	思わない	0.5

2 市内小学校の実践

(1) 令和元年度 A 小学校の実践例

ア 各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間等と連携したキャリア教育

イ 学校・家庭・地域の人・社会・自然・文化等との関わりを通じたキャリア教育

小学校の発達段階に合わせ、身近な地域を中心に、実際に見たり、聞いたり、体験できたりする活動を重視する中で、以下のキャリア教育の目標を目指す。

- 自己及び他者への積極的関心を形成・発展
- 身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

具体的な訪問場所や見学内容等 ※抜粋

- ・北名古屋市東図書館（1年生）
- ・まち探検で地域のお店や施設を見学（2年生）
- ・西春日井広域消防東消防署、ポッカサッポロフード&ビバレッジ名古屋工場スーパーバロー、森永乳業中京工場の見学（3年生）
- ・愛知県警察本部、五条川工場（ごみ処理場）、あいち航空ミュージアムの見学（4年生）
- ・トヨタ自動車の高岡工場、トヨタ会館の見学（5年生）
- ・熊之庄歴史資料館を訪問し、熊之庄流鏝馬行事の保存会の方からお話を聞く
長栄寺や高田寺を訪問し、「六ツ師神楽屋形及び神楽ばやし」と「高田寺白山社神楽太鼓」を見学
- ・六ツ師獅子舞保存会の方を学校に招き、お話を聞く（6年生）

(2) 平成29年度 B 小学校の実践例（キャリアスクールプロジェクト「つなぐ」）

ア 地域の方の体験から学ぶ（3年）

- ・講師…ヘリコプターパイロット（元PTA会長）
- ・内容…職業について（仕事のやりがい等）、昔の生活や遊びについて
- ・工夫…アクティブラーニングの視点

(ア) 「語る」「語らせる」「語り合わせる」場の設定

質問の検討、学習内容の共有、学習報告会の準備

(イ) 「伝える」場の設定

学習報告会（3年→2年）全体で

(ウ) 「振り返り」場の設定

さらに学びたいことは？

イ 助産師さんの体験から学ぶ（4年）

・講師…助産師3名（NPO）

・内容…職業について（仕事のやりがい等）、「生命誕生」に立ち会う素晴らしさ

・工夫…アクティブラーニングの視点

(ア) 「語る」「語らせる」「語り合わせる」場の設定

(イ) 「伝える」場の設定

学習報告会（4年→3年）個別で

学習報告会（保護者へ）全体で（1/2 成人式）

(ウ) 「振り返り」場の設定

ウ 職人さんのモノづくりから学ぶ（6年）

・講師…和菓子職人（彩菓庵「かどや」社長）

・内容…和菓子の歴史と菓子文化を学ぶ、和菓子作りの実習

・工夫…ALの視点

(ア) 「語る」「語らせる」「語り合わせる」場の設定

体験の感想を発表し合う

(イ) 「伝える」場の設定

「和菓子新聞」の発行

学習報告会（6年→5年）全体で

(ウ) 「振り返り」場の設定

お礼の手紙、自己の生き方に関する作文

トピックス

きつずタウン北なごやについて

小学生を対象に、企業、地元事業者、NPO 法人、ボランティアなどの団体が想いを共有しながら繋がり、「職業体験」をはじめとする、社会・地域体験をすることで、子どもたちが将来を考える機会とし、「働く」ことの意味・意義を考えるきっかけにしようことにより、北名古屋市のキャリア教育の一助となっている。

教育におけるICTの活用の推進

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、児童生徒に「生き抜く力」を育み、信頼される学校教育を推進する。
重点目標	<p>社会を生き抜く力を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導を工夫して、学習指導要領の内容を確実に習得、育成する。 ・IT教育支援事業 (成果指標) <p>平成30年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果によると、小学校5校以上、中学校3校以上の自治体における北名古屋市の愛知県での順位は、小学校が3位、中学校が9位である。今後、教員のICT活用の指導力の状況調査で、活用が「よくできる」、「できる」の割合を各項目90%以上にし、「ほとんどできない」を0にする。</p>
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング研修会を実施し、パソコン教室のタブレットを利用して、模擬授業及びデジタル教材の作成方法について学んだ。 ・デジタル教科書の有効的な利用法について学んだ。 ・アプリを使用した発表ノート、グループ化の機能について学んだ。 ・新規に北名古屋市に赴任した教員に対し、情報セキュリティに関する研修を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等にICTを活用することができるという回答した教員の割合が各項目において、おおむね増加した。 ・日常業務において、ICTを活用する際の情報セキュリティについて、重要性の理解度を深めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・できると回答した人数は増えた反面、あまりできないと回答した教員が増えた。また、ほとんどできないと回答した教員も少数いる。 ・ICT機器を活用することが困難な教員に対して、研修等により利活用ができるようにフォローしていく必要がある。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想による、一人一台の端末利用が必須となる中、ICT活用教育の実現にむけて、研修会を開催し、コンピュータの使用方法を積極的に学び、効果的に授業にICTを活用していく。 ・現職教育事業を活用し、ICT利用についての研修を積極的に行っていく。

<p>外部評価委員 の意見</p>	<p>I T教育支援事業の施策により、公立学校情報化ランキングが県内で上位になることは大いに評価したい。また、実績データとして示された「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」データも、とてもよい数値を示していることも喜ばしい。</p> <p>事業成果が教員の自己評価のみとなっていることは残念である。多大な税金が投入された事業であるため、今後は授業での活用事例と子どもの変容を示し、市内で共有化できる財産を作っていくことを提案したい。</p> <p>着実に教員のスキルアップが図られている。これを活かすような基本的プラットフォーム（LMS ラーニングマネジメントシステム）を市としてどこにするのか、充分検討し、決めることが肝要である。潤沢に研究費がある東京大学で、無料で設置できる Moodle を導入し、会議ソフトは ZOOM にしたことは充分意識してよい。本市に合ったプラットフォームを決め、その上で、他のプラットフォームとの「連携」に習熟していくのがよいように思う。使いやすいものだと、パッケージで用意された以外のことをやろうとすると、たいへんコストがかかる。市役所や大学で使える汎用性の高いものを市全体として決めていくのがよいのではないか。大学で使うようなもの（Moodle、Classroom、Teams など）なら、小中学校独自に研修せずとも採用時にそれなりのスキルがあることになる。</p> <p>グループ活動への指導に「苦慮」されていることがアンケートからうかがわれる。実際の授業でどう活用できるか、むしろこれまでの対面のよさを安易に捨て去らず、学び方を総合的にとらえて、「先進」例にあたりつつ検討してほしい。学校に来にくい人（働いている、遠隔）と出会いをつくる授業の創造が ICT 活用でこそやれることだろう。ツールに合わせるのではなく、授業の必要や遊び感覚の創造的な活動から、「活用」を広げてほしい。</p>
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○実績データ（「令和元年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より）

1 小学校

(1) 教材研究・指導・評価などにICTを活用する能力 (単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	61.1	30.5	91.6
教材や校務分掌に必要な資料を集めたり、保護者等に必要な情報を発信するためにインターネットなどを活用する。	63.3	31.9	95.2
授業や校務分掌に必要な提示資料を作成するために、各種アプリケーションを活用する。	67.3	29.2	96.5
作品等をコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	64.6	27.9	92.5

(2) 授業にICTを活用して指導する能力 (単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
学習に対する興味・関心を高めるためにコンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	61.1	31.9	93.0
互いの意見・考え方等を共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用する。	51.3	32.3	83.6
学習ソフトウェアを活用して、繰り返し学習する課題や一人ひとりの理解・習熟度に応じた課題などに取り組みせる。	49.6	32.3	81.9
グループで話し合っって考え方をまとめたり、協働してレポート、資料などを作成したりするなど、学習の際にコンピュータソフトウェアなどを効果的に活用する。	44.7	37.6	82.3

(3) 授業にICTを活用して指導する能力

(単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
基本的な操作技能を身に着けることができるように指導する。	61.1	31.4	92.5
コンピュータやインターネットを活用して、情報を収集し、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択できるように指導する。	59.7	33.6	93.3
各種ソフトを活用して、分かりやすく発表したり表現したりできるように指導する。	52.2	33.6	85.8
互いの考えを交換し共有し話し合いができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	46.5	33.2	79.7

(4) 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

(単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
自らの行動に責任を持ち、相手の事を考えた情報のやり取りができるように指導する。	63.7	31.0	94.7
反社会的な行為や、違法な行為、ネット犯罪などの危険性を回避したり、健康面に留意して適切に利用できるように指導する。	67.3	26.5	93.8
セキュリティの基本的な知識を身につけ、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	61.9	30.1	92.0
コンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	64.2	30.1	94.3

2 中学校

(1) 教材研究・指導・評価などにICTを活用する能力 (単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	64.1	33.1	97.2
教材や校務分掌に必要な資料を集めたり、保護者等に必要な情報を発信するためにインターネットなどを活用する。	73.1	26.9	100.0
授業や校務分掌に必要な提示資料を作成するために、各種アプリケーションを活用する。	78.6	20.0	98.6
作品等をコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	73.1	24.8	97.9

(2) 授業にICTを活用して指導する能力 (単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
学習に対する興味・関心を高めるためにコンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	58.6	40.7	99.3
互いの意見・考え方等を共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用する。	49.0	46.9	95.9
学習ソフトウェアを活用して、繰り返し学習する課題や一人ひとりの理解・習熟度に応じた課題などに取り組みせる。	48.3	46.9	95.2
グループで話し合っって考え方をまとめたり、協働してレポート、資料などを作成したりするなど、学習の際にコンピュータソフトウェアなどを効果的に活用する。	49.7	44.8	94.5

(3) 授業にICTを活用して指導する能力

(単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
基本的な操作技能を身に着けることができるように指導する。	55.9	41.4	97.3
コンピュータやインターネットを活用して、情報を収集し、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択できるように指導する。	56.6	40.7	97.3
各種ソフトを活用して、分かりやすく発表したり表現したりできるように指導する。	51.7	46.2	97.9
互いの考えを交換し共有し話し合いができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	46.2	51.0	97.2

(4) 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

(単位%)

区分	令和元年度		
	よくできる	できる	計
自らの行動に責任を持ち、相手の事を考えた情報のやり取りができるように指導する。	65.5	31.7	97.2
反社会的な行為や、違法な行為、ネット犯罪などの危険性を回避したり、健康面に留意して適切に利用できるように指導する。	66.9	31.7	98.6
セキュリティの基本的な知識を身につけ、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	62.1	34.5	96.6
コンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	64.8	32.4	97.2

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
I T教育支援事業	192,348	196,131	193,397
現職教育研修事業(小学校振興費内)	620	620	605
現職教育研修事業(中学校振興費内)	300	300	278

トピックス

新学習指導要領に対応できているか

平成30年度公立学校情報化ランキングにおける北名古屋市のランキングは、小学校では全国順位324位、中学校では704位で、小学校5校以上、中学校3校以上のランキングにおいては、小学校が愛知県内で3位、中学校が愛知県内で9位となっている。

おおむね小中学校とも各項目で90%以上の教員がICTを活用できると回答している。

中学校については、平成30年度に比べて、令和元年度の結果は大幅に改善している。

小学校における教科担任制の推進

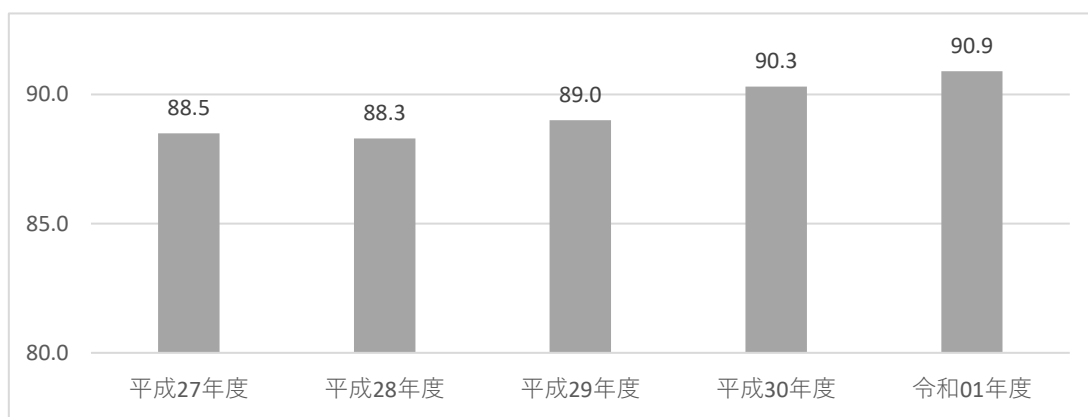
令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	「規律」「学力」「自己有用感」をキーワードに、児童生徒に「夢」と「生き抜く力」を育む信頼される学校教育を推進する。
重点目標	世界に羽ばたく力を育む
	小学校英語に教科担任制を導入する等、英語教育を充実する (成果指標) 小学校:英検 Jr. ブロンズを達成した小学6年生の割合 90%以上
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度からの新学習指導要領の全面実施に向けて、小学5・6年生で英語が教科になることに伴い、中学校英語免許状を有し、児童生徒への指導経験がある者を「英語専科講師」として市単独で4人配置し、県加配教員1人を加えた5人が、10小学校を2校ずつ受け持ち、学級担任に代わって英語授業を行った。 一部の小学校では、配置される教員の専門性に着目し、音楽や体育などの教科について分担を工夫し、緩やかな教科担任制を推し進めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 2018年に策定した市の最上位計画である「総合計画」の主要施策及び各年の教育委員会の基本方針や理念を示した「教育委員会基本方針」の重点目標に「英語教育の充実」を掲げており、その目標に向かって各学校が積極的な取組を推進したことや、ALTを積極的に配置するとともに先進的に小学5・6年生の英語授業に教科担任制を導入したことにより、英語教育を本市の教育の特色とすることができた。 英語力を測るため小学6年生を対象に実施しているテストにおいて、目標に掲げた90%以上を達成することができた。 小学5・6年生の学級担任は、英語専科講師が英語授業を行う時間を、他の教材研究や授業準備に使うことができた。 一部の教科について教科担任制を実施したことにより、教員個人が有する専門性を発揮できる機会が増えた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」を掲げる新学習指導要領では、教員により高い専門性が必要となることが見込まれるため、英語教育だけでなく、その他の教科についても専門的知識がある教員に任せていく仕組みを実現することが求められる。 学級担任は、日常の児童の様子を把握しており、その児童の特徴を理解した上での教科指導が求められるため、学級担任と教科担任の情報共有

	がより一層求められる。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の分担を工夫し教科担任制を推進することにより、専門性に裏付けられた指導による教育内容の充実を図っていく。 ・これまで学級担任が、1年に1度行う授業のために費やしていた教材研究・授業準備について、学年分のクラスの授業を行うことによる質の向上と時間の効率化を進めていく。 ・これまで学級担任が主となり把握していた児童の様子を、教科担任制による複数の教員の多面的な視点で日常の変化に注視することにより、児童を支援していく。
外部評価委員の意見	<p>長年、生涯学習充実の視点から英語教育に力を入れてきた成果が、授業においても具体的にますます見えるようになってきた。事業成果を明確にする確かな手法があることも評価したい。教科担任制の推進に伴い、学級担任との連携が図れるような子ども個々のデジタル評価の積み上げを検討されるといい。</p> <p>カリキュラム・マネジメントでは「教科等横断」する力が求められている。英語授業で成果を着実にあげつつ、他の教科へのつながりが意識されている。教科担任だと、「教科等横断」は、教員間の人間関係に左右される。教科に責任を持ちつつ、他の教員の教育活動に関心を持ち、連携することが始まっている。</p> <p>学校を超えて、土曜英語教室との連携も模索してほしい（英語教室での学びを学級に還元する）。</p> <p>英語での成果を活かしつつ地域における英語以外の外国語の必要性も検討してほしい。</p>

○実績データ

- 1 (公財) 日本英語検定協会「英検 Jr.」のブロンズ（リスニング力の測定）を達成（80%以上正解）した児童の割合



2 小学校5・6年生の英語授業における英語専科講師とALTのペアの5組の組合せ校

1組目	2組目	3組目	4組目	5組目
師勝小	五条小	鴨田小	師勝西小	白木小
師勝東小	栗島小	師勝南小	師勝北小	西春小

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
英語指導事業費	26,283	45,414	73,178

トピックス

中学校の英語力はどのような状況か。

英語の資格として広く認知されている「英検」において、中学校卒業程度レベルは英検3級とされています。本市では中学3年生を対象に、(公財)日本英語検定協会「英検 IBA」を実施し、英検3級相当の力が着いているかを検証している。本市の目標値は、「英検3級程度以上を達成した中学3年生の割合を50%以上」としているが、令和元年度の結果は60.6%と目標値を大きく上回った。

II 生涯学習課

生涯学習課では、平成 30 年度に「北名古屋教育推進スキーム・生涯学習編（2019 年度～2023 年度）」を作成し、新たな目標を掲げ、実りある生涯学習施策に取り組んでいる。また、絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりを推進するため、学校・家庭・地域社会が連携・協働・共生して、子どもたちの学びを支援し、社会全体で子どもたちを育むことができる体制の強化・発展を推進している。

児童生徒英語力推進事業は、英語への親しみを育むことを目的に、年齢に応じて参加、体験できるプログラムを設け、将来、グローバル社会で活躍できる児童・生徒の素地の育成を図っている。

放課後子ども教室事業は、放課後児童対策として、学校や児童クラブとの連携を深め、地域の方には講師をしていただくなど一体となって、子どもたちの「豊かな学び」を支えている。また、令和元年度から小学校全 10 校の教室運営を地元 NPO 法人等が担うことで、保護者からの要望にも柔軟な対応が可能となり、放課後子ども教室の質の向上と学習環境の充実に努めている。

少年少女発明クラブでは、学校のない土・日曜日の子どもの安全・安心な居場所づくりの充実、「学び」と「体験」を重視した学習活動の一環として、次代を担う子どもたちに創造力を育成するとともに、「ものづくり」に親しむ環境を整え、「ものづくり」に携わる人材の育成を図っている。

東図書館及び歴史民俗資料館は、開館から 30 年を経て建物の中核となる吹抜け空間と直下の 1 階ロビーを、地域の情報や資料を市民に広く発信する空間として新たに位置付け、環境整備を実施した。今後、市民からの地域に関する情報提供及びそのフィードバックを行う場として展開を図る。

歴史民俗資料館は、昭和日常博物館及び回想法を展開する施設として独自の取り組みにより注目を集め高い評価を得ている。また、様々な取り組みについて調査・研究の成果を研究紀要として編集・発行を行っており、情報発信に努めている。

児童生徒英語力推進事業

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	夢と志を持ち、可能性に挑戦し生き抜くために必要な力を育成する。
重点目標	学びへの参加のきっかけづくりの推進
	実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図り、グローバル化社会に対応できる人材を育成する。
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜英語教室 小学1・2年生を対象に、校区内児童館及び児童センターきらりの10か所で、土曜日に年18回の英語教室を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、3月の教室は中止となった。 また、「えいごでハロウィーン」は台風19号の接近に伴い、中止となった。 ・ 夏期英語体験研修 <ol style="list-style-type: none"> (1) イングリッシュキャンプ（小学生研修） 小学3年生から6年生までの30人が、福井県立三方青年自然の家で、1泊2日の英語でのキャンプ生活を行った。 (2) ブリティッシュヒルズ中学生英語体験研修 中学1年生から3年生までの22人が、福島県にある英国風の語学留学施設ブリティッシュヒルズで、3泊4日の英語研修ツアーを行った。 ・ 中学生語学留学事業（グアム英語研修ツアー） 中学1・2年生の12人が、グアム大学などで5泊6日の英語研修ツアーを通して、実践的なコミュニケーションスキルを身につけ、将来、グローバルな世界の中での有為な人材を育成する英語研修を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止となった。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜英語教室を通じて、低学年から英語に親しむ機会を提供でき、英語への関心と興味を引き出すことができた。 ・ イングリッシュキャンプは、直接、外国人指導者と英語でやり取りしながらキャンプファイヤーやアクティビティーなどのキャンプ生活を通じて、英語への関心と意欲を掻き立てることができた。 ・ ブリティッシュヒルズ中学生英語体験研修は、日本に居ながら英国留学と同じ体験ができる語学留学施設での滞在と英語体験研修を通じて、英語への興味・関心を広げ、深めるとともに、コミュニケーション

	<p>ョン能力の向上を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生語学留学事業（グアム英語研修ツアー）は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、英語研修ツアーは中止となったが、事前研修で実践的なコミュニケーションスキルや現地の文化について学び、また、同世代の参加生徒同士が同じ目的を持った仲間意識を育めたことは、将来に向けて前進しようとする自信に繋がった。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 土曜英語教室で、小学1年生の前期の教室は、授業に集中させることが困難なため、より工夫が必要である。 夏期英語体験研修は、短期間ということもあり、レクリエーションの要素もあるため、英語に対する実力や関心度（積極性）を測ることが課題として残る。 ブリティッシュヒルズ中学生英語体験研修は、参加者の声から「英語が得意な生徒向け」という先入観が付いているとのことから、イメージを払拭する必要がある。 中学生語学留学事業では、グアム英語研修ツアーを有意義なものにするため、事前研修で準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、現地での英語研修ツアーを中止としたことで、参加生徒に現地での体験をさせられないという非常に残念な結果となった。
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 土曜英語教室及び夏期英語体験研修は、令和2年度の事業が中止となったが、次年度に向け、安全で多くの児童生徒に関心を持ってもらえるような充実した内容を検討し、PR・周知に取り組んでいく。 中学生語学留学事業についても、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、適切に対応する。
外部評価委員 の意見	<p>北名古屋市の生涯学習の目玉といってもよい事業であり、事業の積み上げと振り返りにより、報告書に記載された内容以外にも、様々な事業成果があるととらえている。引き続きご尽力いただきたい。</p> <p>魅力ある企画が継続的に行われている。ここで英語を学んだ児童・生徒が、「外国語活動」「外国語」においてどのように出番を得て「活躍」したのか知りたい。学校教育課の評価事項3で、年々「英検 Jr. ブロンズ」達成者が増加し、90%を超えた成果にも貢献している点があると思う。</p> <p>小学校での「外国語活動」（3・4年）、「外国語」（5・6年）導入を踏まえて、より有効なあり方を検討してほしい。</p> <p>「旅行」的要素も魅力だが、国際交流協会などと協働し、北名古屋</p>

	<p>市自体を国際的空間ととらえ、現実的な国際交流へ中学生をいざなうことも検討してほしい。</p> <p>「バーチャル海外体験」などは、必要な ICT の活用事例になりえ、ここでのつながりは「授業」でも活かせると思う。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○実績データ

1 土曜英語教室

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開催校	10 校	10 校	10 校	10 校
開催日数（1 校）	14 日	20 日	20 日	18 日
参加者数	190 人	238 人	275 人	221 人
対象学年	小学3・4年生	小学2・3年生	小学2・3年生	小学1・2年生

※平成28年度は9月から開催。

2 夏期英語体験研修

(1) イングリッシュキャンプ 参加人数（定員：30人）

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
小学3年生	6 人	6 人	12 人	7 人
小学4年生	7 人	9 人	8 人	10 人
小学5年生	9 人	5 人	5 人	8 人
小学6年生	8 人	10 人	5 人	5 人
計	30 人	30 人	30 人	30 人

(2) ブリティッシュヒルズ中学生英語体験研修 参加人数（定員：25人）

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
中学1年生	7 人	5 人	7 人	14 人
中学2年生	7 人	9 人	6 人	7 人
中学3年生	8 人	9 人	3 人	1 人
計	25 人	23 人	16 人	22 人

3 中学生語学留学事業 参加人数（定員：12人）

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
中学1年生	3 人	5 人	6 人	9 人
中学2年生	9 人	7 人	6 人	3 人
計	12 人	12 人	12 人	12 人

※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止。

○重点目標に係る予算額

（単位：千円）

関係事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
児童生徒英語力推進事業	15,047	15,632	15,230	14,921	13,515

放課後子ども教室事業

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	教育政策推進のための基盤を整備する。
重点目標	安全・安心で質の高い放課後児童対策の推進
	<p>放課後に小学校の特別教室等を子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）として活用し、学習活動や地域住民との交流活動、体験活動等の取り組みを通して、社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育む。</p> <p>また、教室をNPO法人等の団体に委託を行い、児童クラブと一体的運営を目指し、学校・地域・児童クラブとの連携を図り、放課後児童対策の中核事業として推進していく。</p>
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後子ども教室の運営を、平成30年度まで直営だった2校（五条、白木小学校）も委託へと変更し、教室を実施する全10校をNPO法人等4団体に委託して運営するものとした。 ・ 夏休み等の長期休業日も開室（午後2時～午後5時）した。ただし、お盆期間中、年末年始は休業とした。 ・ 開室日数：全10校とも延べ206日（前年度229日）とした。 ※新型コロナウイルス感染症の拡大による学校休校に伴い、3月は閉室。ただし、緊急措置として、拡大した児童クラブ運営支援を行い、児童の居場所を確保した。 ・ 平均1日利用児童数：16.0人（前年度13.9人） ・ 「放課後子ども教室運営委員会」を年3回開催した。 ・ 「児童クラブ・放課後子ども教室合同責任者会議」を年2回開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフの資質向上を目指して、不審者対策研修会、サポーター情報交換会などを実施した。 ・ 虐待が疑われる児童に対して、学校・児童クラブ・家庭支援課等と連携して、見守りを行うことができた。 ・ 配慮が必要な児童への指導について学ぶために、研修会への参加やスタッフ同士の話し合いにより、児童に寄り添った対応について学び、実践することができた。 ・ 家庭科室等の特別教室の机などを工夫することで、児童が学習しやすい環境づくりができた。

	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中の児童クラブからの移動について、熱中症の危険がある時期については児童クラブと連携して、移動しない等の対策を行うことができた。 夏季休業中に、小中学校のALTと英語専科教員を講師として招き、英語活動を行うことができた。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大・予防対策として、3つの密を避けた運営が必要である。 児童の学力定着・向上を目指して、個にあった指導の充実を図る必要がある。 学校・家庭・地域社会や児童クラブとの連携をさらに深め、学習指導、体験活動の充実を図る必要がある。 災害・安全について、避難訓練等を計画的に行い、災害時における危機管理の意識・対応できる能力を養う必要がある。 学校・家庭・地域社会の協働や児童クラブとの連携をさらに深め、学習指導、体験活動の充実を図る必要がある。
<p>今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大・予防対策をきちんと行い、児童クラブと連携して放課後子ども教室の活動を行っていく。 子どもの学力の定着を図るために、スタッフの資質向上を図り、指導方法を工夫していく。 学校・家庭・地域社会などと協力しながら充実した学習活動や体験活動を実践していくとともに、児童にまわりの方が見守ってくれていることを気づかせ、感謝の気持ちを育む。 災害・安全について、年間計画を立て、避難訓練等を行うことによって、スタッフには常日頃から危機意識を持った指導力、児童には安全に避難する実践力を養わせる。
<p>外部評価委員 の意見</p>	<p>以前はNPO法人の運営の課題があげられていたが、課題の明確化、その課題解消への取組などにより、課題ではなくなってきたことを評価したい。また、個々の子どもへの目配りもされており、虐待が疑われる児童への対応などができていることも特記しておきたい。</p> <p>主体的・自発的に取り組むようになるには、「失敗」を含む試行錯誤、その後の調整や「挽回」の機会を持つことが必須である。この意味で、子どもや親の要望や苦情をきちんと聞きながら、ここまでこの教室を作り上げてきたことは、子どもたちのよい手本になる。この教室は、学校（とくに授業）と家庭をつなぐ、困難だが貴重な場であ</p>

	<p>る。児童クラブとの協働も軌道に乗りつつあると感じられる。コロナによる休校状態下でも、学校と家庭、勉学と生活の「調整」役を果たしたと評価して感謝したい。「社会に開かれた教育課程」との協働にもう一步踏み出すことを期待できる。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○実績データ

1 概要

- ・ 実施日時 学校給食のある月曜日から金曜日の授業終了後から午後5時30分まで
なお、春休み・夏休み・冬休みは、午後2時から午後5時まで
(ただし、お盆と年末年始は休業。)
- ・ 実施場所 市内全小学校 特別教室
- ・ 対 象 小学3年生～6年生
- ・ 定員数 各教室 40人
- ・ 活動内容 宿題、自主学习(教材プリント)、体験・交流活動等
- ・ 利用料 1人月額 2,500円(夏休み期間は別途加算あり。)
- ・ 運営形態 事業委託 10校(NPO法人等4団体へ委託)
- ・ 指導者配置 各教室コーディネーター1名及びサポーター1名等の配置

2 利用状況(10校分)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
登録数(当初)	43 人	403 人	428 人	526 人
延べ利用者数	3,131 人	24,318 人	31,757 人	33,093 人
平均	5.0 人	11.6 人	13.9 人	16.0 人
登録率	—	—	12.7 %	15.7 %

※平成28年度は、6月から西春、師勝南、五条、師勝西小学校の4校で開室。

平成29年度は、年度当初は4校で、6月から全小学校に拡大。

令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による学校休校に伴い、3月は閉室。

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
放課後子ども教室事業	38,323	57,686	55,815	57,069

○トピックス

新型コロナウイルス感染症の流行により、3月2日(月)から学校が臨時休業となったことから保護者の負担軽減のため、放課後子ども教室を休室し、児童クラブへの協力体制として、学校とともに人員応援・サポートを実施した。

その結果、自主登校教室参加者が多く児童が安全で安心して学べる居場所が確保された。

北名古屋市少年少女発明クラブ

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	教育政策推進のための基盤を整備する。
重点目標	土曜学習の推進
	理科や科学に関心を持つ子どもたちに楽しみながらものづくりに取り組みめる機会を提供し、未来の技術者を育成する。
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市環境学習センター（西春中学校内）において、小・中学生を対象に年9回の活動を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、3月の活動は中止。 (1) ものづくりコース (2) ロボットコース (3) 自由製作コース ・ あいち少年少女創意くふう展 発明クラブの趣旨である「次代を担う子どもたちの個性や才能を伸ばし、発明工夫や創造性を啓発する」作品を出品した。 ・ 少年少女発明クラブ創立10周年記念事業 平成21年9月に設立した北名古屋市少年少女発明クラブの10周年記念式典を開催した。 <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 映像と音楽で綴る10年史 (2) 日本航空高校太鼓隊演奏 (3) 植松 努氏 講演会 (4) クラブ員対抗「天才クイズ」 (5) 10年間の作品展 (6) 進路・就職先アンケート調査 (7) 10周年記念誌の作成
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ員は332人と、3年連続で300人の大台を超え、県内3位（23クラブ中）と同時に全国3位（209クラブ中）の規模であり、保護者を始め多くの方から好評をいただいている。 ・ ものづくりコースでは、電子・木工工作を始め、科学実験やガラス細工、航空工学など、独自のカリキュラムに取り組み、理科に関する基礎・応用知識を学ぶとともに、工具の使い方などの技術力を高めた。 ・ ロボットコースでは、自立型ロボットを使用し、基本コース（1年

	<p>目)、応用コース(2年目)の2か年計画で、ハードとソフトの面からロボットの構造を学びながらロボットプログラムの知識を習得した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由製作コースでは、「ものづくりコース」で培った知識・技術を活かし、クラブ員オリジナルの作品を製作することができた。 あいち少年少女創意くふう展では、創造性あふれる作品を出品し、『発明協会会長奨励賞』及び『振興賞』を受賞した。また、「全日本学生児童発明くふう展」で、本クラブ初となる『奨励賞』も獲得した。 少年少女発明クラブ創立10周年記念事業では、「モノづくり ヒトづくり ユメづくり」のスローガンを基に、本クラブの過去を振り返り、今を見つめ、未来を創造する礎となる内容を、指導員15人で構成された実行委員会を中心に、企画・立案され、指導員自ら製作・準備した手作りの記念式典を開催し、大盛況となった。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動を継続するため、新型コロナウイルス感染症の拡大・予防対策として、3つの密を避けた活動を実施する必要がある。 クラブ員に対して適切な指導を行うため、ボランティアである指導員の確保、指導力・技術力向上を図る必要がある。 クラブ設立から10年が経ち、これまでの成長期から発展期へ移っていくため、活動内容等の充実を図る必要がある。
<p>今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラブ員・指導員の健康と安全を第一に考慮し、活動場所・人数・方法など、新型コロナ感染症の拡大・予防対策を検討していく。 クラブ員が安全・安心に活動できるよう、研修会の実施や新たな指導員の確保に努める。 アンケートを分析し、指導員と協力し合いながら、活動内容の質等を高める。 あいち少年少女創意くふう展では、クラブ員の創造意欲の喚起と能力の開発に励み、発明工夫された作品の出品を増やし、継続的な受賞を目指していく。
<p>外部評価委員 の意見</p>	<p>この事業も北名古屋市が長年継続してきており、確かな実績がある事業であり、今後もぜひ継続していきたい。</p> <p>興味深いのは次年度(令和2年度)での子どもたちの状況である。コロナ禍で休校となり、子どもたちには思わぬ時間が生まれたわけである。発明クラブの一人でも多くの子どもたちが時間を有効に使い、発想や作品作りに勤しんでいたなら、まさにこの事業の大きな成果である。</p> <p>キャリア教育でつながった専門家や企業と、「社会に開かれた教育課</p>

3 後援企業・寄付者

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
後援企業・団体	7 団体	8 団体	10 団体
賛 助 金	1,570 千円	1,620 千円	1,920 千円
寄付者・団体	60 件	55 件	58 件
寄 付 金	611 千円	558 千円	592 千円

○重点目標に係る予算額 (単位：千円)

関係事業名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
北名古屋市少年少女発明クラブ	2,200	2,200	2,200	2,000

○トピックス

10年で100件ほど蓄積された活動計画は、北名古屋市少年少女発明クラブの「継承と創造」の原動力となっており、未来を担う技術者を育成するため、クラブの基本理念・心構えに共有した指導員が一丸となり、ダイナミックな活動を目指している。

施設の整備と新たな機能の創出

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	生涯学習・社会教育の推進を支える基盤の整備
重点目標	施設の整備と新たな機能の創出
	社会教育施設の運営の質の向上
令和元年度の取組内容	<p>東図書館・歴史民俗資料館の中心的空間となる吹抜けには陶壁画が掲げられ、開館以来、建物のシンボルとして親しまれてきたが、劣化による一部陶壁の落下に伴い、利用者の安全確保を最優先し、陶壁画の撤去、吹抜けの改修工事を実施した。安全確保のための改修に加え、建物のシンボルであった陶壁画に代わる象徴的空間を創出するため、建物の中核となる吹抜け空間と直下の1階ロビーを、情報や資料を集積し、市民に広く発信するという図書館・資料館の機能を象徴する空間として新たに位置付け、環境整備を実施した。</p> <p>陶壁剥落発生 平成30年12月31日確認 改修工事概要 東図書館吹抜け部改修工事 仮設工事（養生、足場、排煙ダクト） 解体工事（陶壁研り、撤去、処分） 内装工事（陶壁跡ケイカル板貼り、塗装、バトン設置補強材） 電気工事（バトン用配線） バトン工事（電動昇降式）</p> <p>改修工事期間 令和2年1月18日から令和2年5月26日まで 工事施工期間 令和2年2月24日から令和2年4月16日まで</p> <p><コンセプト> 開館30周年を目前に、東図書館は、歴史民俗資料館と合わせ、コミュニティの場として広く市民に情報を提供する場、コミュニケーションを図る場として変革、整備を進めている。これまで、「図書館は玉手箱」、昭和日常博物館特別展・企画展、ワークショップ等のソフトプログラムを活用してコミュニティの場の形成を図ってきた。 今後は、こうした事業を表象する場として、吹抜け空間及び1階ロビーを、市民が集い、憩える場として、アートを展開する場、また、地域</p>

	<p>の多様な情報を集積し「見える化」する場として継続して整備していく。</p> <p>図書館及び昭和日常博物館（歴史民俗資料館）は、真に誰でも無料で利活用でき、その目的も本の貸出しや見学に止まらず、調査、読書、読み聞かせ、回想、くつろぎ、交流等多岐にわたる。現状の建物や空間に新たな価値を付すことにより、開館から 30 年を迎える施設をハードの改装にソフトプログラムを添えて活用する。</p>
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料の提供による地域アイデンティティの「見える化」 <p>本市の郷土に関する情報は「昭和日常博物館（歴史民俗資料館）」及び図書館の郷土資料として多岐にわたって蓄積されている。また、行政機関が発行しているリーフレット、パンフレット、冊子等も数多い。しかしながら、こうした情報を市民が手にし、共有する術は限られている。様々な情報源がありながら一堂に提供できるスペースは十分とは言えない状況にある。地域の情報を収集し提供することは図書館の重要な役割であり、図書館に地域の歴史、文化、アイデンティティを「見える化」するスペースを設置することにより、コミュニティの場としての整備を計画している。現状では、新型コロナウイルスの感染拡大防止対応として整備後休館となっており、整備に止まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域情報公開スペースの整備 ◇ 地域情報の収集・整理・提供 ◇ 地域の歴史資料の展示 ・ 地域情報の提供 第1弾 「北名古屋でドングリは拾えるか!？」 <p>市民とともに市内においてドングリが拾える地点を調査、種類を同定、どングり MAP を作成し提供する。目的は、市民とのコミュニケーションを図り、地域の情報を市民から収集し、編集して提供することでコミュニティの場を形成する。そのため、子どもから高齢者まで広く関わることのできるテーマを選定した。</p> <p>西春町史等から昭和 50 年代のドングリが実るナラの木の分布を地図で表示するとともに、市民から現在ドングリが拾える地点の情報提供を呼び掛ける準備を進めてきたが、新型コロナウイルスの影響を受け、当面事業休止となる。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの場を意識した取り組みを継続しているなかで、新たに場の整備を試みているところであるが、新型コロナウイルスの蔓延

	<p>及びその感染拡大防止策の実施、さらには「新たな生活様式」、「新たな日常」、「ニューノーマル」が叫ばれる時代における図書館におけるコミュニケーション論の展開が危機にさらされている。</p> <p>こうした状況の中で、新たなサービスの形態を探る必要が図書館のみならずあらゆる公共サービスに求められることとなる。</p>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当分の間、新型コロナウイルス感染防止を徹底しながらサービス提供を実施することとなるが、そのなかで新たなサービスの創出を図っていきたい。
外部評価委員の意見	<p>市民の目線と利用を視野に入れた施設運営を大いに評価したい。市民利用を促すためには、やはり何らかの動きを常に創り出しておくことである。</p> <p>ただ本やものが「展示」されている、というレベルを遙かに超えて、「社会に開かれた社会教育施設」となっている。そこで何かができる魅力を磨いている。コロナの休校状態で、オンラインの予約を活用しつつ最低限の利用の保証をシンプルにやっていただいたことに感謝するとともに、図書館は文化・知の拠点であることが再認識できた。</p> <p>「北名古屋市でドングリは拾えるか」は地域に根ざしたすぐれた「発問」である。「子どもから高齢者まで」関われる機会が作り出せたのも意義がある。その人や実物とリアルに出会うことも大事だが、それを「想像する」ことも極めて重要である。ICTも活用しつつ、リアルの出会いを基盤に想像力をかき立てるように工夫していくことも重要かもしれない。</p>

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
図書館整備事業	32,939	18,300	30,177

開館30周年を経た「昭和日常博物館」の評価

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	現代的・社会的課題及びライフステージに応じた学習機会の充実
重点目標	開館30周年を経た昭和日常博物館を評価し、新たな学習機会を創出する 新たなコレクション「昭和日常博物館」の構築から回想法事業「博福連携」の構築・普及と今後の施策を検討する
令和元年度 の取組内容	<p><昭和日常博物館の試み></p> <p>北名古屋市歴史民俗資料館は平成2年に開館した。「歴史民俗資料館」の名のとおり、縄文時代から始まる地域の歴史、明治時代から昭和時代における生業や慣習など民俗に関する資料収集と展示を行う生涯学習施設として図書館に併設されてスタートした。開館3年後から、さらに昭和時代の生活資料を中心としたコレクションの構築に動き出した。</p> <p>新たなコレクションを構築し、展示構成していくことで、来館者、特にその時代をよく知る地域住民（高齢者）との関わりが深まり、福祉との連携を経て「博福連携」という新たな生涯学習の機会を創出した。</p> <p><地域回想法の取組み></p> <p>北名古屋市では、地域に暮らす高齢者を元気にしていくプロジェクトとして、回想法を活用している。博物館と福祉部局とが連携を図った「思い出ふれあい（回想法）事業」を「博福連携」と名付け、活動の軸の一つとしている。高齢者が思い出を語り合う「回想法スクール」に始まり、スクール修了者は「いきいき隊」として活動を継続することで健康を維持、さらに、子どもたちと世代間交流を図っている。また、昭和日常博物館では、「いきいき隊」のメンバーがミュージアム・エデュケーターとしての役割を担う機会を「世代間交流ワークショップ」というスタイルで提供している。</p> <p>介護予防・認知症予防から健康づくりへ、そして生涯学習へと、回想法は大きく広がっている。ときをつなぐ回想法が、人の絆を育み、その活動の広がりや地域の絆を育み、ネットワークを広げ、地域に潜在する地域住民の主体的力を引き出し高めることにつながっていく。これが健康快適都市を目指す北名古屋市モデル「地域回想法」である。</p> <p><博物館と回想法に関する研究事業の実施 2018-2019></p> <p>博物館における回想法事業の普及の現状を確認し、分析することにより本館へのフィードバックを図った。研究要旨は以下のとおりである。</p>

「現在、博物館教育論や展示論等の文献に回想法についての記述がなされるようになってきている。また、博物館等における回想法の実施状況を調査した結果、何らかの形で回想法を担う施設が歴史系の博物館をはじめ、美術館、動物園等にも広がり全国 100 館近くに及び、博物館プログラムのスタンダードになりつつある。博物館における回想法の導入スタイルを分類していくと、大きく「常設型」と「期間限定型」に分けられる。常設型は、「行政機構型」（教育行政と福祉行政等が連携）、「アウトリーチ型」（博物館資料の貸出、学芸員による回想法サービスの提供）、「ウェルカム型・来館型」（博物館の展示やハンズオンコーナーを利用）に細分でき、それらの複数を組み合わせて実施する館も少なくない。また、展示会やワークショップ等の教育普及事業のなかで行う館を「期間限定型」と称することができる。導入当初は限定的なプログラムであっても、館の特性と利用者のニーズに合わせて、次第に館ごとの個性的な回想法に発展していくことが予想できる。」

< 認知症ケア学会での発表 >

- (2018) 第 19 回「回想法を活用した博物館の取組みの現状と課題の分析」
－認知症ケア及び予防の資源としての博物館の活用
- (2019) 第 20 回「認知症予防及びケアとしての「回想法キット」の取組みの現状と課題」
－回想法ツールとしての博物館実物資料の提供の課題

< 博物館関連事例発表 >

- (2018) ミュージアムマネジメント研修「北海道博物館と地域の関わり」
「博福連携」の試み-高齢社会に向けてミュージアムにできること
- (2018) 日本博物館協会主催「全国博物館長会議（第 25 回）」
「人生 100 年時代と博物館」
- (2018) 国立台湾歴史博物館主催国際シンポジウム「新たな博物館教育」
「博福合作之嘗試-博物館如何服務高齢」
- (2018-2019) 九州産業大学主催「2025 問題に向けた高齢者の健康と博物館の役割」
- (2019) 日本博物館協会研究協議会「新たな入館者対策～入館者増のための方策」
「民俗・生活資料を活用した博物館回想法の取組」

<p>成 果</p>	<p>開館30周年に際し、「昭和日常博物館」の30年間の取組を再検証した。</p> <p>可能な範囲で新たなコレクションを構築し、そのコレクションだからこそ可能なプログラムを設定する。現代社会や地域が抱えている課題と向き合いつつ、新たな連携により博物館単独では成し得ないサービスが創出された一例として多くの博物館の参照となっている。</p> <p>こうした取組みが評価され、多くの博物館が加盟する日本博物館協会において、令和2年に新たに創設された「日本博物館協会賞」の「最高特賞」を受賞する運びとなった。</p> <p>※ 日本博物館協会賞・最高特賞の受賞に関しては、3月に開催された理事会において承認され、令和2年11月に開催される全国博物館大会において授賞式が行われる。</p> <p>本賞は、「日本の博物館の振興に大きく貢献し、他の博物館の模範となる顕著な成果を挙げていると認められる施設を、年間で2施設まで顕彰できる仕組み」(※)となっている。この度、第一回受賞館として「ちひろ美術館(東京・安曇野)」と「北名古屋歴史民俗資料館」が選定された。</p> <p>受賞理由として、「地域の公立博物館として、所蔵する昭和期の生活資料を活用し、地域の高齢者を対象とした回想法を用いた事業に早くから取組み、日本でのモデルケースとして他の同種の施設へ広がりをも促す先駆的な役割を果たすとともに、地域住民と博物館の連携とともに、地域の医療や福祉等、多様な行政との連携体制の下で、地域文化を人から人へと受け継ぐ装置としての博物館の役割を果たすとともに、地域における異世代間交流の場としても機能し、事業の継続について長期的な展望と計画が整備されている。」(※)と評価された。</p> <p>(※) 日本博物館協会『博物館研究』Vol155 No.5 2020 「日博協だより 日本博物館協会賞の創設と第一回受賞館の選定について(お知らせ)」</p>
<p>課 題</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大防止とコミュニケーションを主体とした博物館、特に回想法の取組みとの新たな共存策を模索し、「新しい日常」における取組みを創出する必要がある。</p>
<p>今後の対応</p>	<p>開館30年における成果及び「日本博物館協会賞」受賞を公表する事業を展開する。</p> <p>また、コミュニケーションを主体としてきた博物館の在り方に、新型コロナウイルス感染症の影響は多大である。これに対するガイドラインでは</p>

	<p>博物館の従来型の運営に制限がもたらされ、新たな取組みを創出する必要性が説かれている。</p> <p>これまでどおりコレクションの構築には支障はないがその活用についてはモノとヒト、ヒトとヒトの関係を変容させることが必要とされている。現状では模索中という表現をとるしかない状況であるが、オンライン、インターネットといった媒体、非接触を主体とした博物館資料の活用を創出していく必要がある。</p>
<p>外部評価委員 の意見</p>	<p>栄えある第1回日本博物館協会賞・最高特賞の受賞、誠にありがとうございます。全国規模で認められることは、市民にとっては誇りにもなることである。この博物館の概要などを示したサイトへのアクセスを促し、実際の利用と繋がるような試みを期待したい。</p> <p>リアルなものにふれて「回想」という想像力を使い、子どもが高齢者といっしょにリアルを共有することは、大人の生きた日常生活や時代を想像させ、それがその大人の人生や生きた場所をリアルにつかむことにつながる。自分の未来を想像することにつながる。施設のあり方を「生き方」を想像して模索してきたところは、「受賞」で評価されたとおりである。くり返しになるが、この成果を教育課程に取り入れられないかと思ってしまう。どこが「教育課程」との接点となるかの組織的な情報提供があればよいのだろうか。小学生中学生に企画を考えてもらう機会もつukれないだろうか。また、トヨタ産業技術記念館との協働があると、「昭和」の産業的背景まで理解が容易になる。</p>

○実績データ

歴史民俗資料館入館者数

(単位：人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入館者数	40,127	32,825	46,895	61,853	44,216	38,852

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度
歴史民俗資料館運営事業	12,536	12,596	11,778

Ⅲ スポーツ課

スポーツ課では、「スポーツ基本法」、「第2次北名古屋市総合計画」、「第2期北名古屋市教育大綱」及び「第2期北名古屋教育推進スキーム」の理念を踏まえ、スポーツを通じた健康増進を図り、活力ある「健康快適都市」を実現するため、4点の重点目標を定め、事業を実施した。

点検及び評価については4点の重点目標の内、以下の2点の重点目標の事業を対象とした。

1点目の重点目標、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」については、市民の心身の健全な発達や健康増進を図ることを目的に活動しているスポーツ団体に対し、運営費の一部を補助するとともに各種事業及び組織運営を支援した。また、スポーツ競技の全国大会等に選手として出場した方に激励金を支給し、本市の名声と競技力の向上を図った。

2点目の重点目標、「スポーツ実施率の向上」については、スポーツ未実施者の数をゼロに近づけることを目標に、スポーツ教室、市民体育祭、ふるさとマラソン等、誰もが気軽に親しめる事業を実施した。

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	誰もがスポーツに親しみ、健康と絆を育むスポーツ環境を整える
重点目標	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
	市民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤として、市民誰もが各々の年代や関心、適正等に応じて日常的にスポーツに親しむ機会を充実する。
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育協会推進事業 スポーツの推進と市民の心身の健全な発達、健康増進を図ることを目的に活動している北名古屋市体育協会に対し、運営費を一部補助するとともに各種事業及び組織運営のための体制整備を支援した。 ・ スポーツクラブ推進事業 「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむ」ことを目的に地域と密着した総合型地域スポーツクラブとして活動している北名古屋ふれあいスポーツクラブに対し、運営費を一部補助するとともに各種事業及び組織運営のための体制整備を支援した。 ・ レクリエーション協会推進事業 レクリエーションの総合的な普及・振興と市民の心身の健全な発達、明るく豊かな市民生活の形成を目的に活動している北名古屋市レクリエーション協会に対し、運営費を一部補助するとともに各種事業及び組織運営のための体制整備を支援した。 ・ スポーツ競技全国大会等出場者激励事業 アマチュアスポーツ競技の全国大会等に選手として出場された方に激励金を支給し、本市の名声と競技力の向上を図った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのスポーツ団体推進事業については、各団体の継続的な常時活動やイベントの実施により、市民の日常的なスポーツ環境の充実に寄与することができた。 ・ 全国大会等出場者激励事業については、令和元年度は、新型コロナウイルスの影響で、多くの全国大会が中止となったことにより、件数は減少しているが、全国大会での優秀成績者が増加傾向にあり、競技力の向上に繋がっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育協会、スポーツクラブへの加入率が近隣同規模人口自治体と比較すると低くなっている。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大を受け、今後は、平時から安全にスポーツ活動を行うための対策に取り組むことが必要である。

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 内容の充実や市民に対する積極的な啓発など会員増に向けた方策をスポーツ団体とともに検討する。 新型コロナウイルス感染防止対策として活動前の検温、活動前後及び休憩中の手洗い、咳エチケットなどを平時から実践し、安全にスポーツ活動を行ってもらようよう各スポーツ団体に周知、徹底する。
外部評価委員の意見	<p>安定した取組がされている。課題に示された「近隣との加入率と比較」は、本質を見失うことになるので不必要であり、大切なことは市民の声である。</p> <p>それぞれのイベントが定番化して市民の中で定着してきている。参加者数、優秀成績者数なども地道に少し増加しているものが多い。マンネリにならず、出場者を奨励するなど参加者を大切にしていることを高く評価したい。</p> <p>今回のコロナは「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむ」目的と照らすと、活動自粛のときでも、家や近所で、ひとりや数人でもスポーツを楽しむことまで「いつでも、どこでも」に含むことを教えてくれた。分散した状態で、散歩や軽い運動ができることに光をあてる必要がある。それを ICT で共有したりイベント化したりできれば、ひとりでジョギングしていても、多くの人を感じられるスポーツ活動になるのかもしれない。</p> <p>公園の利用の仕方や、校庭の開放の仕方の工夫が求められている。</p>

○実績データ

1 体育協会推進事業関係

(1) 会員数

項目	平成 30 年度	令和元年度
会員数	2,960 人	3,226 人

(2) 主なイベント参加者数

イベント名	平成 30 年度	令和元年度
市民春季体育大会	2,007 人	2,111 人
スポーツ教室	52 人	144 人
市民秋季体育大会	2,241 人	2,445 人
スポーツフェスタ	600 人	500 人
スポーツ講演会	520 人	中止（コロナ感染予防）

2 スポーツクラブ推進事業関係

(1) 会員数

項目	平成 30 年度	令和元年度
会員数	1,563 人	1,473 人

(2) 主なイベント参加者数

イベント名	平成30年度	令和元年度
カローリング大会	150人	156人
子ども水中運動くらぶ	中止（猛暑により）	84人（2校猛暑により中止）
スポーツ玉入れ大会	130人	130人
ふれあいボウリング大会	87人	62人
スポーツクラブ体験会	283人	中止（コロナ感染予防）

3 近隣同規模人口自治体との体育協会・スポーツクラブ会員数比較

自治体名	体育協会・スポーツクラブ会員数	令和2年3月末人口	加入率
北名古屋市	4,699人	86,113人	5.46%
大府市	5,891人	92,982人	6.34%
尾張旭市	4,998人	83,866人	5.96%
犬山市	4,333人	73,665人	5.88%

4 レクリエーション協会推進事業関係

(1) 会員数

項目	平成30年度	令和元年度
会員数	141人	141人

(2) 主なイベント参加者数

イベント名	平成30年度	令和元年度
全国一斉あそびの日	250人	246人
各種講習会	856人	723人
レクリエーション誕生祭	450人	400人
スポ・レク祭	192人	200人
ウォーキング&芋煮会	112人	128人

5 スポーツ競技全国大会等出場者激励事業関係

項目		平成30年度	令和元年度
激励者数		団体1件・個人96件	団体1件・個人63件
全国大会 優秀成績者	優勝	2件 (スキー、ソフトボール)	2件 (テニス、ボウリング)
	準優勝	2件 (ソフトボール2件)	4件 (ソフトテニス、ソフトボ ール2件、空手道)
	第3位	4件 (バウンドテニス、バドミ ントン2件、スキー)	1件 (野球)

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
体育協会推進事業	8,353	8,353	8,353
スポーツクラブ推進事業	7,224	7,224	7,224
レクリエーション協会推進事業	677	677	677
スポーツ競技全国大会等出場者激励事業	1,000	1,000	800

○トピックス

【スポーツ団体表彰受賞歴】

- ・生涯スポーツ優良団体表彰（文部科学大臣表彰）
 鴨田スポーツクラブ（平成19年度）、西春スポーツクラブ（平成21年度）
 白木スポーツクラブ（平成24年度）、五条・栗島スポーツクラブ（平成25年度）
 東スポーツクラブ（令和元年度）
- ・愛知県知事表彰
 北名古屋市レクリエーション協会（平成30年度）

スポーツ実施率の向上

令和元年度教育委員会点検及び評価書

基本方針	誰もがスポーツに親しみ、健康と絆を育むスポーツ環境を整える
重点目標	スポーツ実施率の向上
	これまでスポーツに関わってこなかった人が気軽にスポーツに親しめるようなスポーツのスタイルを提案し、成人のスポーツ未実施者（1年間に一度もスポーツをしない者）の数がゼロに近づくことを目指す。
令和元年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子体操教室事業 体操を通じた体力向上と親子のふれあい、仲間づくりの場としてもらうことを目的として幼児と保護者を対象に開催した。 ・ スポーツウェルネス吹矢教室事業 誰でもゲーム感覚で楽しむことができ、呼吸法による健康増進効果もあるスポーツウェルネス吹矢教室を市スポーツ推進委員主催により開催した。 ・ スポーツ資料展示事業 市民のスポーツ意識の向上と東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催の気運を高めることを目的として、本市出身で野球日本代表監督の稲葉篤紀氏のゆかりの品々を展示した。 ・ 妙高市コシヒカリマラソン参加事業 市民の体力づくりを図るとともに本市と災害時相互応援協定を締結している新潟県妙高市との交流事業の一環として、幅広い年代、家族で出場できる妙高市コシヒカリマラソンへの参加に向け準備を進めたが台風の影響により中止した。 ・ 愛知県市町村対抗駅伝競走大会参加事業 県内各市町村の交流、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を目的に開催された愛知県市町村対抗駅伝競走大会に小学生から 40 歳以上までの年代別選手で構成した市代表チームを編成し、参加した。 ・ 北なごやふるさとマラソン事業 体力づくりと健康の保持・増進及び参加者相互の交流を図ることを目的として、市内外から参加者を募り開催した。また、今回から団体種目としてリレーマラソンを新たに導入した。 ・ 北名古屋市民体育祭事業 健康、地域づくりを目的として、幼児から高齢者までの幅広い年代、また、家族、友達同士で参加できる市民体育祭の開催に向け、実行委員会を組織し、準備を進めたが台風の影響により中止した。

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と保護者、高齢者などターゲットを絞った事業や幅広い年代の人が家族・友達同士で気軽に参加できる事業など、多様な事業を実施することで、本市のスポーツ実施率の向上に寄与することができた。 ・ふるさとマラソンでは、団体種目として小学生を対象としたリレーマラソンを初めて導入するとともに小中学生の参加費を無料としたことで、大幅な参加者増となった。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて、スポーツ推進委員会の主催により実施したスポーツウエルネス吹矢教室は、多数の参加を得ることができたが、参加者が今後も活動を継続してもらえる取り組みが必要である。 ・ふるさとマラソンについては、第5回の節目の大会であったが、今後、更に発展させるため、市民相互、地域と企業の絆を深めることができる大会にしていく必要がある。
<p>今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツウエルネス吹矢教室を継続するとともに、スポーツ推進委員が主体となり、その後の自主運営によるクラブ化を支援していく。 ・ふるさとマラソンについては、チームの一体感を高めることができるリレーマラソンの部門を拡充するとともに市内企業からの参画を募り、出展ブースを設置するなど競技に参加しない人も楽しめるお祭りの内容にしていく。
<p>外部評価委員 の意見</p>	<p>成人のスポーツ未実施の数をゼロに近づけるための興味深い取組が精力的にされていることを評価したい。事業が安定期に入ったときに、心がけたいことは原点に戻ることである。この場合、なぜゼロを目指すのか、これを問いたい。</p> <p>定番化のよさは、運営がわかる人が増えるため、質を磨いたり人手がかからなくなったりすることである。このうえで「スポーツに関わってこなかった人」を巻き込むような新しい取り組みを入れて、マンネリになっていない。</p> <p>小中学生の参加が増えて（参加費の考慮など目立たないが大きな工夫）、大人の活躍を見たり、声をかけられたりする機会ができたこと、大人から見れば、子どもたちの姿を見ていっしょにやったり応援したりする機会ができたことは大きな意義がある。こういう「小さなドラマ」をアンケートで拾っている点を高く評価したい。</p>

○実績データ

1 各事業参加者数

事業名	平成 30 年度参加者数	令和元年度参加者数
親子体操教室 【対象：年少児から年長児までの子どもと保護者】	8 組 19 人 (適正人数 20 人)	12 組 28 人 (適正人数 24 人)
スポーツウエルネス吹矢教室 【対象：市内在住者】	—	74 人 (適正人数 80 人)
妙高市コシヒカリマラソン 【対象：年齢制限なし（中学生以下保護者同伴）】	10 人 (高校生以上 10 人) (適正人数 20 人)	中止 (申込者：高校生以上 21 人) (適正人数 20 人)
愛知駅伝市代表選手選考会 【対象：小学 4 年生以上】	57 人 (適正人数 85 人)	67 人 (適正人数 85 人)
北なごやふるさとマラソン (H30 年度) 【マラソン対象：1.7km 小学 4～6 年生、2.5km・5km 中学生以上】【ウォーキング対象：年齢制限なし（未就学児保護者同伴）】 (R 元年度) 【リレーマラソン対象：小学 4～6 年生】【1.5km タイムトライアル対象：小学 4 年生以上】【5km チャレンジ対象：中学生以上】【ウォーキング対象：年齢制限なし（小学生未満要保護者同伴）】	798 人 (1.7km マラソン小学生 144 人) (2.5km マラソン中学生 9 人) (2.5km マラソン高校生以上 29 人) (5km マラソン中学生 31 人) (5km マラソン高校生以上 299 人) (ウォーキング 286 人) (適正人数 1,400 人)	1,173 人 (リレーマラソン 26 チーム 78 人) (1.5km タイムトライアル小学生 196 人) (1.5km タイムトライアル中学生 38 人) (1.5km タイムトライアル一般 21 人) (5km チャレンジ一般 273 人) (5km チャレンジ 50 歳以上 127 人) (ウォーキング 440 人) (適正人数 1,200 人)
市民体育祭 【対象：幼児以上（種目によって異なる）】	1,640 人 (適正人数 2,200 人)	中止 (申込者：1,555 人) (適正人数 2,200 人)

2 事業参加者アンケート結果

(1) 親子体操教室

自由記入欄	<ul style="list-style-type: none"> ・人見知りな息子も楽しそうでとてもよかった。 ・講師の方がアットホームな雰囲気をつくってくださり、子どもも安心して取り組んでいました。 ・暑くて外で遊べない中、空調のきいた室内で元気いっぱい走り回ることができ、とてもよかった。 ・子どもの年齢毎にクラス分けをして、それぞれの年齢にあった内容にしてほしい。
他にやってほしいスポーツ教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス（親子でできる）、体幹や体の基礎づくりに良い運動、リトミック（音楽にあわせて体を動かす）

(2) スポーツウエルネス吹矢教室

自由記入欄	<ul style="list-style-type: none"> ・準備、後片付けをしていただいたスタッフの方に感謝します。気持ちよく参加できました。 ・呼吸法により精神統一ができて、とてもよかった。 ・教室に参加して前向きな気持ちになり、スポーツに興味が出ました。 ・年金生活で毎日家にいる生活となり、これでは良くないと思いましたが、今後も自分に合うものに色々参加したい。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 愛知県市町村対抗駅伝競走大会

愛知駅伝選手感想	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが上がらない事があっても走ることで気分もスッキリし、気持ちも切り替えられた。 ・こんなに大きなイベントに参加できて、光栄だと思った。 ・とても、チームワークを感じることができた。 ・自分よりも2倍も3倍も速い人がいたので、それ以上に速くなりたいと思った。 ・小学生から大人までみんな仲が良く、雰囲気も良かったので、練習が楽しかった。 ・今回で8回目の参加となりますが、この大会で知り合った人達との縁を感じます。この縁がなければ陸上をやめていたかもしれません。
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○重点目標に係る予算額

(単位：千円)

関係事業名	平成30年度	令和元年度	令和2年度
親子体操教室	50	36	-
スポーツ資料展示	-	2,255	669
妙高市コシヒカリマラソン	299	304	305
愛知駅伝	958	910	977
北なごやふるさとマラソン	8,951	8,507	9,500
市民体育祭	2,200	2,200	2,200
合 計	12,458	14,212	13,651

○トピックス

【愛知駅伝成績推移】

年度	順位	タイム	タイム前年比
令和元年度	34位 (38チーム中)	1時間42分04秒	-7分20秒
平成30年度	38位 (38チーム中)	1時間49分24秒	+2分50秒
平成29年度	38位 (38チーム中)	1時間46分34秒	+40秒

外部評価委員による全体意見

長年、外部評価委員を務めてきて大いに評価したいことは、北名古屋市教育委員会は、常にエビデンスに基づいた確かな振り返りを積み重ね、次の施策につなげようとされていることである。だからこそ組織に変動があっても、一定以上の成果を生み出すことができているととらえている。

数値的なエビデンスがとりにくい事業にも積極的に取り組んでおられることを踏まえて、今後はそうした事業もこの点検項目にあげることに挑戦されることを期待したい。

令和元年度は、①2年度4月からの小学校学習指導要領全面実施に向けた、これまでの成果を活かしつつ北名古屋市らしい教育をさらにすすめる準備・移行の課題、②新型コロナウイルスによる3月の「休校状態」での対応の問題、そしてとくに③ICT化の課題があったが、それぞれの評価項目において、児童生徒・子どもとともに、教師、行政、市民が、「主体的」に学び、試行錯誤しながらも成果を共有し、次の動きをつくっていくことがみえた。コロナの休校状態においても、これまでの「社会を生き抜く力」の育成の継続・発展が図られた。これは「北名古屋市の子どもは地域全体で育てる」方向性のもとで、「社会に開かれた教育課程」づくり（カリキュラム・マネジメント）につながる。

生涯学習課、スポーツ課のそれぞれの取り組みにおいて年々定番化が図られるとともに新しいことを取り入れて充実してきて、「社会に開かれた教育課程」とつながる要素が豊富に準備されている。

師勝北小学校で、「野菜名人」「メダカ名人」として、地域の人が授業で協働することがはじまり、TVで放映されて高く評価されている。

キャリア教育、個々の地域の取り組みで、〈専門家〉との出会いは豊富に生まれている。このつながりを太く、質の高いものにしてほしい。

このとき、「授業」を新しいことを学ぶ場としてだけでなく、学んだことを持ち寄る場、活動したことの意味を深める場ともとらえると、例えば放課後子ども教室や発明クラブなどで学んだ子どもの「出番」を授業につくることで、「社会に開く」アイデアが出てくると思われる。

キャリア教育が、個人のカリキュラム（人生設計）をマネジメントしているにとらえれば、個人のカリキュラム—学校の教育課程—地域のカリキュラムの三者がつながり始め、これを世代と世代の出会い、つながりがつくれる高い到達点にきている。

【参考】新しい学習指導要領の精神、それを支える教育基本法第三条

「直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤

したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け」る（中教審答申第197号、2016年）

「(生涯学習の理念) 第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」(教育基本法)